

2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名 今村 浩司	職名 教授	学位 修士(福祉社会)(福岡県立大学)
----------	-------	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス(精神保健福祉)領域におけるソーシャルワーク	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス(精神保健福祉)、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研究課題
メンタルヘルス領域における地域生活支援に関する研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関する研究 精神保健福祉士の専門性向上に関する研究 精神障害者の成年後見に関する研究 触法障害者・高齢者の地域定着に関する研究 諸外国におけるメンタルヘルスサポートシステムの歴史の変遷の研究

担当授業科目
相談援助の基盤と専門職(福祉学科1年通年必修4単位) 福祉入門(福祉学科1年前期必修2単位) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ(福祉学科3年前期選択4単位) 精神保健学(福祉学科3年後期選択4単位) 精神障害者地域生活支援論(福祉学科4年後期選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(福祉学科3年通年選択2単位) 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ(福祉学科4年通年選択2単位) 精神保健福祉援助演習Ⅰ(福祉学科2年後期選択1単位) 精神保健福祉援助演習Ⅲ(福祉学科4年後期選択1単位) 精神保健福祉援助実習Ⅰ(福祉学科3年選択4単位) 精神保健福祉援助実習Ⅱ(福祉学科4年選択4単位) ボランティア概論(保健福祉学部の看護学科・福祉学科・栄養学科1年前期選択1単位) ボランティア概論(人文学部の英語学科・観光文化学科1年前期選択1単位) 専門研究Ⅰ(福祉学科3年通年必修2単位) 専門研究Ⅱ(福祉学科4年通年必修2単位)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【相談援助の基盤と専門職】</p> <p>福祉学科1年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、刑務所福祉専門官やスクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーにより理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを行い理解を深めた。</p>

<p>授業科目名【福祉入門】</p> <p>対人サービスを行う福祉専門職養成のために、福祉学科4名の教員で、現実的な福祉実践臨床現場における活動などを、それぞれの設定したテーマに沿って、臨場感溢れリアリティな内容の授業を提供した。福祉専門職が実践にてどのような活動を展開しているのかを伝え、そのために必要なコミュニケーション、自己表現、チームワーク等の技能の習得の必要性を理解することを中心に展開させた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の担当の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対するの援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、視聴覚教材等も利用して、より理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健学】</p> <p>精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な必修科目であり、また教職課程においても必修である。可能な限り臨場的な状況にし、国家試験をも意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生や教職以外の受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神保健学全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。更には精神保健学の実際を、視聴覚教材導入して理解を深めさせた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神障害者地域生活支援論】</p> <p>精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対するの総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解してきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアクションペーパーを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】</p> <p>精神保健福祉士レーン担当の3人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対する理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】</p> <p>上記同様3人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、実習後の報告会を設定して、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】</p> <p>精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、まずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対するのイメージも膨らませるよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】</p> <p>精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。</p>

授業科目名【ボランティア概論】

人間総合科学の中の、地域創生分野の講義であり、ボランティアや地域貢献活動の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアや地域貢献活動に参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的とした。社会の中で実際にボランティアや地域貢献活動を実践している5名の方をゲストスピーカー（外部講師）として招聘し、さまざまな角度からのリアリティにあふれる具体的な講義を展開し、その現状と魅力が伝わるよう心掛けた。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

14名のゼミ生に対して、精神保健福祉士・社会福祉士として現場実践力の重要性を考慮して、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、積極的に精神科病院や刑務所等の施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的なイメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案内を常に行い、参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士・社会福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスをを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告会で発表させ、報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という2つの目標を定めて活動をした。結果、ゼミ生全員の就職が内定し、社会福祉士と精神保健福祉士にダブル合格を含め、多数輩出することができた。今年度も、ゼミ生の合格者多数の結果であったので、次年度に向けても同様に取り組みたい。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001年～現在）	1994年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010年6月～2012年6月）	1996年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013年～現在）	1996年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008年～現在
日本精神保健福祉学会		2012年～現在
九州精神神経学会		2012年～現在
日本更生保護学会		2013年～現在

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書等) 1. 21世紀の現代社会福祉用語辞典	共	2019年6月	学分社	①社会福祉関係者等に対しての社会福祉用語辞典。主として精神保健及び精神障害者福祉の分野を担当した。 ②編集 九州社会福祉研究会 ③担当部分「医療保護入院」「ウイニコット, D」「うつ病」「感情障害」「感情転移」「感情鈍麻」「精神障害者短期入所事業」「精神障害者地域生活援助事業」「心神耗弱」「公共の福祉」「済世顧問制度」「社団医療法人」「国民国家」「公的扶助」「救貧事業」 ④総頁数 471 頁 A5版
(学術論文・総説 研究ノート 報告等) 1. 北九州成年後見センターの実践活動～法人後見における社会福祉専門職の役割について～	共	2019年9月	「医療ソーシャルワーク研究」No.9	① 北九州成年後見センターにおける実践活動の中で、特段ユニークである法人後見について整理した。またその中で、法律専門職と福祉専門職とのチーム形成にて実践するのであるが、とりわけ福祉専門職の役割について整理し、展望を論じたものである。 ② 発行 日本医療ソーシャルワーク学会 ③ 54 頁から 58 頁を執筆

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	西南女学院大学 共同研究費	○吉原悦子、谷川弘治、今村浩司、樋口真己、笹月桃子、石丸美奈子	1,350,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
日本精神保健福祉士協会	理事	2001年4月～
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001年4月～
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012年7月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002年9月～
北九州地区社会福祉専門職5団体連絡協議会	代表世話人	2006年4月～
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005年10月～
北九州成年後見センター	理事	2006年3月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005年4月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001年4月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005年7月～
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012年4月～
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005年4月～
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006年4月～
北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008年4月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）	2006年4月～
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008年7月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013年4月～
福岡県精神医療審査会	委員	2013年4月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センター）精神保健福祉士国家試験委員会	委員	2014年6月～
北九州市障害者差別解消法委員会	委員長	2016年8月～

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

西南女学院大学・短期大学部 地域連携室 室長
西南女学院大学 入学試験 委員
西南女学院大学 精神保健福祉研究会 顧問（精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会）
福祉学科 精神保健福祉士養成レーン 担当
教員免許状更新講習会学 内開催分 講師（養護教諭）
北九州市年長者研修大学校 シニアサマーカレッジ 学内開催分 講師